

咳喘息におけるロイコトリエン受容体拮抗薬モンテルカストの有効性の検討

京都大学呼吸器内科

竹村昌也、新実彰男、松本久子、上田哲也、松岡弘典、山口将史、陣内牧子、常亮、三嶋理晃

【背景】咳喘息は軽度の気道過敏性、気道攣縮と好酸球性気道炎症で特徴付けられる。ロイコトリエン拮抗薬は、気管支拡張作用と抗炎症作用を合わせ持つ抗喘息薬であり、咳喘息においても咳症状、咳感受性の改善効果が報告されているが、抗炎症効果を含めた作用機序は明らかにされていない。

【目的】咳喘息におけるモンテルカスト単剤投与の効果を検討する。

【対象・方法】喫煙歴のない未治療の咳喘息患者14例にモンテルカスト10mg1日1回を4週間投与し、投与前後でVisual analog scale (VAS) でみた咳症状、機能所見、誘発喀痰の細胞分画、メサコリン気道過敏性、カプサイシン咳感受性を評価した。

【結果】モンテルカスト投与前と比較して、投与にはVASによる咳点数、喀痰好酸球比率、カプサイシン咳感受性が有意に低下した。FEV₁ (%予測値) および気道過敏性には投与前後で有意な変化はみられなかった。

【結論】モンテルカストの短期投与により咳喘息患者の咳症状、カプサイシン咳感受性は改善するが、その機序は好酸球性炎症の改善による可能性がある。ロイコトリエンを含めた炎症性メディエーターの咳喘息での関与についても考察する。